

岡山大学

MONTHLY DIGEST

VOL. 1
2016. 5

TOPICS

1

カナダ政府の大臣が本学を訪問 理事らと会談、新研究所を視察

G7倉敷教育大臣会合に出席するカナダ連邦政府のメアリー・アン・ミハイチャック雇用・労働力開発・労働大臣らが5月13日、本学を訪問し、荒木勝理事・副学長（社会貢献・国際担当）らと会談したほか、異分野基礎科学研究所を視察しました。

メアリー・アン・ミハイチャック大臣やカナダ連邦政府関係者と荒木理事らが、附属中央図書館の岡山県産ヒノキの香り漂う落ち着いたエリア「サルトフロresta」で会談。荒木理事が、本学とカナダの大学が活発に交流していることを説明しました。本学とカナダのプリティッシュ・コロンビア大学(UBC)が、UBCの長期インターンシップ「Co-op プログラム」の一環として「Co-op in Okayamaプログラム」を行っていることや、2015年には最初のインターンシップ生をUBCから受け入れたことなどを紹介しました。

また大臣一行は、4月に新設した異分野基礎科学研究所を視察。久保園芳博研究所長や、田中秀樹大学院自然科学研究科長と懇談しました。久保園研究所長による同研究所の概要説明のほか、研究の様子などを見学しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id5770.html



TOPICS

2

文部科学省・小松研究振興局長らが来学



文部科学省の小松弥生研究振興局長ら6人が5月16日、本学を訪問しました。森田潔学長との懇談後、山本進一理事・副学長（研究担当）が、本学の研究分野の現状と今後の研究推進方策について説明。内容について質疑応答を行うとともに、学術振興のため今後実施すべき政策について活発な意見交換を行いました。

続いて、異分野基礎科学研究所の久保園芳博所長、沈建仁教授、笹尾登教授、自然生命科学研究支援センターの多田宏子教授らの研究室を視察。小松局長らは、各研究者からの説明に熱心に耳を傾け、研究内容について質問していました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id5777.html



最近の大学の取組

本学がインパクトの高い論文数で日本の大学の第10位にランクイン

トムソン・ロイター社が4月18日に発表した「インパクトの高い論文数分析による日本の研究機関ランキング」で、本学が日本の大学で第10位にランクインしました。本調査は、「研究の量・質」を反映する同社のESI指標高被引用論文（Highly Cited Papers:HCP）を用いた、自然科学分野全体を含む総合分野におけるランキングです。

これまでも、文部科学省科学技術・学術政策研究所（NISTEP）の報告資料「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング2015」でTop10%補正論文数（研究の質）の伸び率が全国第2位、ネイチャー・パブリッシング・グループ（NPG）のレポート「Nature Index 2016 Japan」で高品質論文数の伸び率が全国第2位と目覚ましい結果を出しています。今回のトムソン・ロイター社の発表結果も本学の研究力強化の取り組みが適切な方向に進んでいる経過証明になっています。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id5731.html



馬教授、山地准教授に

「Highly Cited Researchers 2015」認定証を授与

トムソン・ロイター社が科学研究の各分野において、その年の最も注目を集めた研究者を選定する「論文の引用動向分析による、影響力の高い科学者 (Highly Cited Researchers)」(2015 年)に、資源植物科学研究所の馬建鋒教授、山地直樹准教授が選出され、4月27日、認定証の授与式が本学にて行われました。

「高被引用論文著者 (Highly Cited Researchers)」は、科学研究の各分野において高い影響力を持つ科学者を論文の引用動向から分析したもので、今回は全世界で3,126人の科学者が選出され、日本の研究者は80人が選出されています。本学から「Highly Cited Researchers」に選出されたのは今回が初めてであり、1度に2人の選出は極めて画期的なことです。

馬教授と山地准教授らはこれまでに、植物が受けるさまざまなストレスのうち、栄養不足や有害金属の過剰などを含むミネラルストレスに対して植物が持つ耐性機構の解明に取り組んでいます。特に植物がどのようにして生育に必要な栄養分を獲得し、各器官へ輸送するか、また有害な金属をいかにして無毒化するかについて圃場レベルから遺伝子レベルまでの研究を精力的に行っており、この世界を先導する研究成果が今回の選出につながったと思われます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id5750.html



オオムギの休眠を制御する新たな仕組みを発見

— 降雨による収穫前の発芽防止が可能に —

資源植物科学研究所の佐藤和広教授、農研機構(国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構)の小松田隆夫主席研究員らの国際共同研究グループは、オオムギの発芽を一定期間休止させる主要な種子休眠性遺伝子「Qsd1(キューエスディーワン)」の配列を特定。Qsd1が種子の胚の中で特異的に作用し、植物種子の休眠性では報告のないアラニンアミノ酸転移酵素を制御することで、休眠をコントロールする仕組みを世界で初めて突き止めました。また、300品種余りの遺伝子配列の比較解析によって、イスラエル付近(南レバント)の野生オオムギから醸造用のオオムギ(休眠の短い品種)の祖先が起源し、その後その中から、ビールなどの麦芽製造の際に休眠の短い突然変異品種が選抜され、世界各地に伝わった歴史も判明しました。本研究成果は5月18日(英国時間午前10時)、「Nature Communications」電子版に公開されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id394.html



グラフェンと有機合成を同時に行う新たな合成法を発見

異分野融合先端研究コアの仁科勇太准教授らの研究グループは、非常に薄い炭素シート(酸化グラフェン)と、有機化合物(ベンゼン類)を混合すると、グラフェンの形成反応とベンゼン類の炭素—水素(C-H)結合の活性化反応が同時に起こることを見いだしました。本研究成果は5月16日(英国時間午前10時)、イギリスの科学雑誌「Scientific Reports」の Accepted Article にオンライン速報として掲載されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id392.html



お知らせ

この度、「岡山大学 MONTHLY DIGEST」を発刊しました。これまで、月に一度発行していた「O・U News」を全面リニューアル。本学が1ヶ月間に発信したさまざまな情報をもとに、月に1度まとめています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。